『基督教研究』創刊 100 周年を覚えて

『基督教研究』は 1923（大正 12）年に創刊して以来、2023 年でちょうど 100 周年を迎えました。1923 年は当時未曾有の災害となった関東大震災が起こり、その 2 年後の 1925 年には治安維持法が成立、その後「15 年戦争」（1931 年満州事変から 1945 年ポツダム宣言までの足掛け 15 年）へと突入していく激動の時代でした。

「発刊の辞」において、芦田慶治は発刊の重要な動機と目的として二つの事柄をあげています。ひとつは「我国基督者の宗教経験に基づいた思想的表現としての神学」であります。西洋から輸入された「舶来神学」ではなく「わが国人特有の創意的な、基督教経験の発露としての神学」の必要性です。二つ目はキリスト教についての「学的知識」を広く世に普及させることです。しかし同時に「この雑誌」が世間受けしないため、芦田は各方面からの財政支援の依頼を率直に述べています。最後に、このような意味で今回の発刊は「可なりの冒険」であり「一種の挑戦 Challenge」であると締めくくっています。

この「冒険」が今や 100 年の月日を経てきたことは感慨深いことです。この間に種々の堅実な研究がなされてきました（備付の『基督教研究』特別号　バックナンバー一覧（1923-2018 年）（2019 年 9 月発行）をご参照ください）。トピックや問題提起は時代を反映しているもの、各専門分野の研究課題に粛々と取り組んでいるものがあります。内容を総括することは困難ですが、『基督教研究』第 85 巻 1 号（2023 年 6 月発行）までに掲載された論文の総数は 1001 本にのぼります（詳細は展示コーナー参照）。単純計算で年に 10 本の論文を発表してきたことになります。ただし、1969 年、1973 年、1975 年は雑誌の発刊に至りませんでした。当時の資料によると、1969 年は「大学問題の渦中にあって『基督教研究』などとうてい発行できる状態ではなかった」、1973 年は論文数が揃わず遅延、1975 年は財政的に見通しがつかなかったようです。1960 年の日米新安全保障条約調印の余波が各地に及び、安保闘争が国民的規模に広がった時代です。

私たちの時代は、2011 年に未曽有の災害となった東日本大震災・原発事故が起こり、その 2 年後の 2013 年に秘密保護法が成立しました。2020 年に新型コロナウィルス、2022 年にロシアによるウクライナへの軍事侵攻が生じまさに激動の時代に生きています。しかし、どの時代のフェーズにあっても、独立した自由な学問研究を維持し、それを展開していくことが求められています。発刊の辞で示された目的を継承し担っていくためにも、神学的（宗教的）経験を大切に次の 50 年、100 年に向かって日々の冒険を継続して行きたいものです。

（村山盛葦）

協力：神学部研究室